

米国 単月での減少額は過去最大（09年3月消費者信用残高）

発表日：2009年5月8日（金）

～信用残高のトレンドは自動車ローンの持ち直しで減少ペースが鈍化～

第一生命経済研究所 経済調査部

近江澤 猛(おおみさわ たけし)

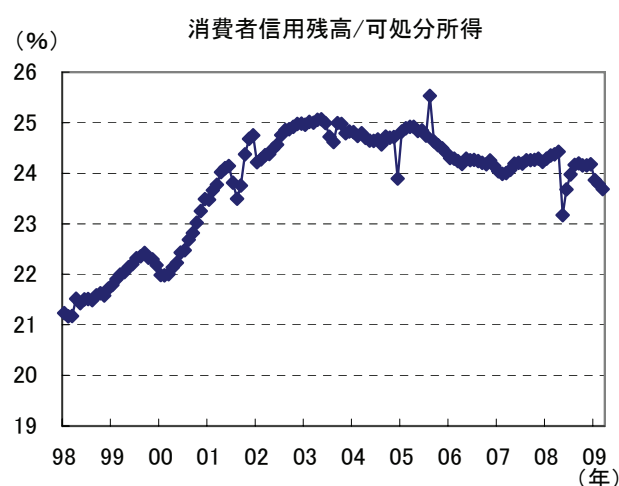
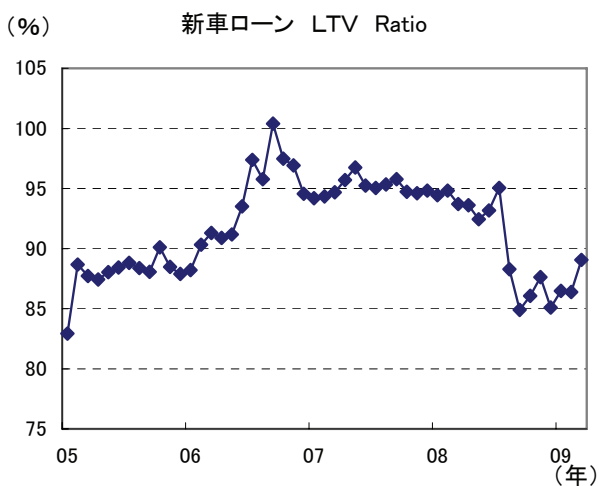
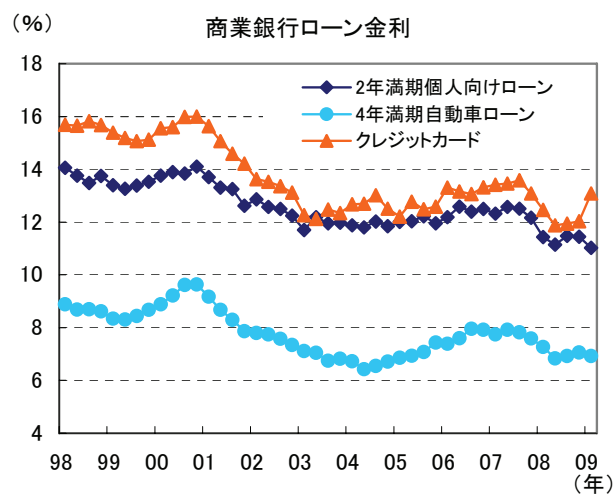
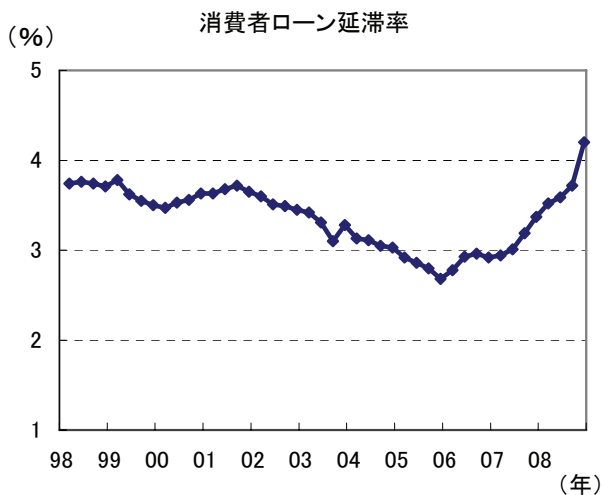
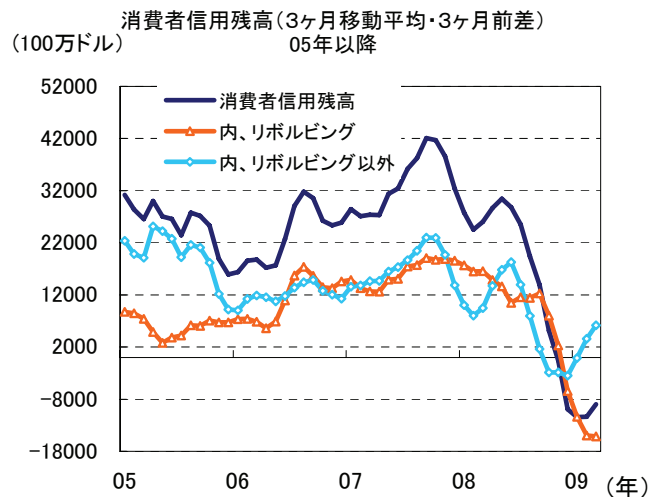
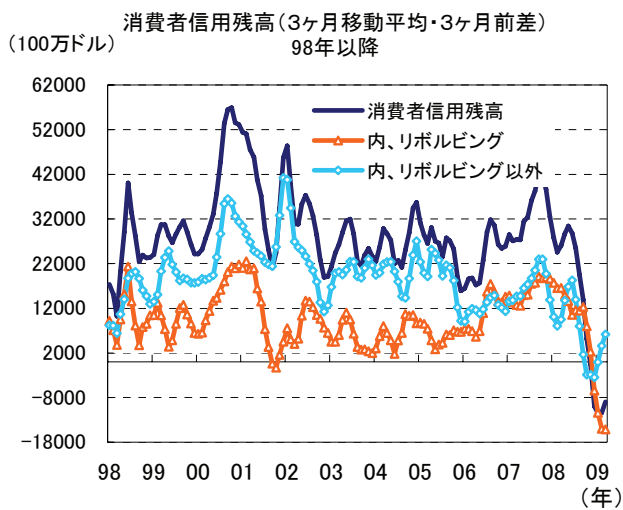
03-5221-4526

- 09年3月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆5511億ドル、前月差▲111億ドル（前月比年率▲5.2%）と、前月同▲81億ドル（同▲3.8%）から減少が加速し、単月での減少額はデータの遡れる1968年以降で最大、前月比年率では90年12月以来の大幅な減少となった。本指標は月次での変動が大きいことから3ヵ月移動平均・3ヵ月前差でみると▲90億ドルと、大幅な値引き販売やローン金利の低下による自動車ローン残高の持ち直しの影響で、前月同▲114億ドルから減少幅は縮小した。四半期ベースでは1-3月期は前期比▲0.48%と前期同▲0.75%からマイナス幅を縮小した。
- 内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月差▲54億ドル（前月比年率▲6.8%）と前月同▲97億ドル（同▲12.1%）から減少幅は縮小。リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）は同▲57億ドル（同▲4.2%）と前月同+16億ドル（同+1.2%）から減少に転じた。
- 先行きの消費者信用残高だが、金融機関の業績悪化に歯止めが掛かり始めたことから、消費者向けローンの融資基準の厳格化度合いや貸出意欲はやや改善されているが、依然として厳しい状況にあることは変わらない。また、消費者マインドは下げ止まっているが、雇用環境の悪化などから低い水準に留まっており、借入、貸出の両面から消費者信用は下押し圧力が続いている。そのため、FRBによるABSの購入を通じて資金調達コストの低下が予想されるが、4-6月期は前期比（1-3月期▲0.48%）で、マイナス幅が縮小する程度に留まるとみられる。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
08/03	2549.0	12.1	5.7	957.3	5.9	1591.7	6.2
08/04	2558.8	9.8	4.6	957.3	▲ 0.0	1601.5	9.8
08/05	2565.5	6.6	3.1	963.0	5.7	1602.5	1.0
08/06	2574.1	8.6	4.0	965.8	2.8	1608.3	5.8
08/07	2581.8	7.7	3.6	972.1	6.3	1609.7	1.4
08/08	2575.8	▲ 6.0	▲ 2.8	974.2	2.1	1601.6	▲ 8.1
08/09	2582.8	7.0	3.3	976.8	2.6	1606.0	4.4
08/10	2578.3	▲ 4.4	▲ 2.1	973.9	▲ 2.9	1604.4	▲ 1.6
08/11	2568.9	▲ 9.4	▲ 4.4	968.2	▲ 5.7	1600.7	▲ 3.7
08/12	2563.3	▲ 5.6	▲ 2.6	961.6	▲ 6.6	1601.7	1.0
09/01	2570.3	7.0	3.3	961.0	▲ 0.5	1609.3	7.5
09/02	2562.2	▲ 8.1	▲ 3.8	951.3	▲ 9.7	1610.9	1.6
09/03	2551.1	▲ 11.1	▲ 5.2	945.9	▲ 5.4	1605.2	▲ 5.7

（出所）FRB（連邦準備制度理事会）

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。